保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	社会福祉法人恵萩会
施設名	鶴ケ谷はぐくみ保育園
報告者（役職）	高橋　祥子（園長）
住所・連絡先	仙台市宮城野区鶴ケ谷８丁目 19-16
	☎　022-352-4218 E-mail　info@tsurugayahagukumihoikuen.com

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

保育について語ろうプロジェクト

○主な助成備品

ビジネスプロジェクター、フロアスクリーン

１．保育計画(新規事業計画)策定の目的

当園は令和３年４月に公立保育所の民間移行で仙台市の東部に位置する鶴ケ谷地区に開園しました。保育園では保育士との関わりを土台にし、様々な人との出会いや関わりを大切にすることで、様々な考えがあることに気づき、人と関わる楽しさや思いやりの気持ちが持てるような、心と体の育ちを大切にする保育を行っています。また、特別支援児や配慮の必要なお子さんが、共に育ちあえるように子ども達の気持ちに寄り添った保育に努め、保育士同志が常に子ども達の援助について話し合い、研修も盛んに行っています。

開園後、映像を使用した研修や行事の際は、プロジェクターとスクリーンを姉妹園から借りて行っていました。研修や行事が重なると姉妹園から借りることができず、その際には書面や口頭で様子を伝える方法で研修を行っていました。しかし、対象となる子どもの気になる姿や、その場の状況を詳しく伝えても、口頭だけでは上手く伝わらず歯痒い思いをしておりました。そのため、しっかりと子どもの姿を見て研修を受け、保育について語りたいという思いが強くなり、プロジェクターとスクリーンの必要性を強く感じるようになりました。

今回、プロジェクターとスクリーンを導入することで研修時には子どもたちの様子について、同じイメージでその児に対しての対応を考察することが可能となり、研修の充実度も増し、保育士一人ひとりの保育のスキルが向上し、園全体の保育の質の向上に繋がると考えました。

２．具体的な実施内容

仙台市では、保育をするなかで、気になる子への対応や、配慮の必要な保護者支援についてスーパーバイズ事業を行っています。当園でもスーパーバイズ事業を活用し、年３回、全職員が研修に参加しております。スーパーバイズの研修方法は講師となるスーパーバイザーに、対象児の気になる姿や、対応についての悩みを事前に資料で相談し、講師に対象児の園での様子をビデオで録画をし、それを基にご助言や講話を頂き、これまでの保育の振り返りや、その児に合った環境の見直しなどを検討します。

今回、プロジェクターとスクリーンを導入したことで、研修でより多くの事例を職員全員で研修することができ、参加者全員で担当保育士が抱える悩みについて話し合うことができて、保育の質の向上に繋がっていると感じました。

また、年２回行っている懇談会では、日頃の保育の様子について保育士の説明と合わせ、画像や動画を視て頂き、子ども達の様子を伝えるようにしました。実際の子どもの姿を保護者自身が視ることにより、保護者と共に子どもの成長を感じることができました。

当園では、保育士自身の気持ちが安定していなければ、子ども達と笑顔で過ごすことができないと考え、姉妹園と合同で外部の講師を招き、職員対象のメンタルヘルス研修を行いました。その際も、プロジェクターとスクリーンを使用し、講師からの講話を受けました。初めての２園合同の研修でしたが、同じ保育士としての交流や、お互いの園の保育について、また自分自身と向き合い何を感じたかなどの語り合いの場となりました。

＜メンタルヘルス研修＞

メンタルヘルスで大切なことは、自分の中に「インナードクターやインナーマザー」を心の中に置き、労わること。ありのままの自分を受け止め、認めていくことが大切であると学びました。演習形式であったため、効果を実感できたり、保育に活かせる内容でした。

保育園での子ども達の姿を、保育士の説明と合わせて画像や動画を視ることにより子どもの成長を共に喜び合える場となりました。

＜保護者懇談会＞

３．その成果と評価

研修のなかで、同じイメージで子どもの姿を捉えることができたり、子どもの支援の更なる課題が明確になりました。研修以外の日常の時間でも保育士同士が、支援の方法を話し合ったり、保育について語り合う場面が増えました。園全体で事例検討を積み重ねることにより、子ども達の姿を一番大切にした保育環境作りの提案やポイントについて共通認識をもつことができました。

４．今後の課題と展望

園内では、保育について保育士や保護者と語り合うことができる環境が整いはじめました。

保育のなかでは、食育活動も盛んで各クラスで旬の野菜や果物に触れたり、自分達で育てた野菜の調理活動を通して、子ども達が五感や心で様々なことを感じ、自分なりの表現で伝えてくれます。実体験を通してしか味わえない、わくわくやドキドキの感動を、各クラスでドキュメンテーションを作成し、保護者にその様子を知らせています。

今後は、保育で子ども達の心が動いた瞬間を記録し、プロジェクターを活用した園内研修を行い、子ども達の遊びが始まったきっかけや、遊びの盛り上がり方、上手くいったことだけでなく試行錯誤する過程の様子なども、さらに保育士同士で保育を語りあっていきたいと思います。

また、園内研修の様子や普段の生活の様子を保護者へお伝えすることで、保育の意図や遊びの流れを知ってもらい、子どもの関心や疑問に対して意見を頂いたり、親子の会話が増え保育の興味や関心が高まると考えます。これまで以上に、子育てや保育について、保護者と話し合うことができ、共に子どもの育ちを考え、支え合える環境に繋げていきたいと思います。

以上